



自分を超える人を 育てたい

渡辺 花の下処理など大変なこともありますが、花屋は創造的な仕事です。アレンジやブーケだけでなく、商品のディスプレイ（陳列）もお店の考え方を表現するのに大切なこと。マニュアルどおりに仕事をこなして、ただ売っているだけでは楽しくない。花をとおして自分を表現し続けることで私自身を磨き、人生を輝かせたいと思っています。

池田 最初から「こうしなさい」とは言わずに、自分で考えさせて試行錯誤させ、要所ではアドバイスするというのは、私の指導方法と同じです。例えばノートの取り方を教えるときは、そう心がけています。今日は楽しかったですが、なかなかうまくいかなかったなあという感想です。辞書の引き方に慣れていないと、要領を得ずに時間が掛かるのと同じかなと。生徒の気持ちがいさしわかりましたね。

渡辺 店はスタッフを育てないといけません。彼らにはぜひ名指しで注文を取れるようになってほしいです。そうすれば店自体も活性化しますし、必要とされると仕事がかっと楽しくなるはずだから。私の世界を表現できるのは私だけという自信もプライドもあるので、超えられることは怖くありません。

池田 渡辺さんが「自分を超えるような人を育てたい」とおっしゃったのが印象的でした。私も同じです。生徒が私よりも英語がうまくなるのはとてもうれしいことですし、そうなるようにこれからも指導し続けます。

開店前に、商品である鉢植えの花を店先に並べていきます。簡単なようですが、通りがかりの人の目を引くように、色合いや場所を考えながら配置するには経験が必要です。池田さんはとまどいながらも、スタッフの指示どおりこなしていききました。

市場で仕入れた切り花は、そのままでは店に出せません。花を元気にさせて長持ちするような下処理が必要で、その一つが「湯揚げ」です。切り口部分を1センチほど切って、熱湯に10秒ほど入れます。このような工程があることを全く知らなかったという池田さんは、慎重に10数えました。湯から上げてすぐに冷たい水の中に入れ、1時間ほどおきます。「湯揚げをすると、

花がシャキッと立ち上がります。いつも不思議に思っているんですけどね」と渡辺さん。仕入れ日には午前中いっぱい、多い時には午後3時頃までこの作業にかかるそうです。

そのほか切り花の陳列や花瓶の水換えと洗浄、店内や店回りの掃除、鉢植えの水やりなどの仕事があります。もちろん接客も大切です。店の中には客用のイスが一脚あるだけで、スタッフはずっと立ち仕事。そもそも座っている時間はありません。数々の地道な作業をこなしつつ、花屋の腕の見せ所であるアレンジやブーケ制作に取り組むのです。

自由に、でもキッチリと

いよいよアレンジの体験です。春をテーマに、店内にある切り花を自由に使って作品をつくりまわす。「日本の華道には厳格なルールがあるけど、この



アレンジ制作を教わる池田さん。「つぼみも入れると動きが出るでしょ」と渡辺さんからアドバイス

アレンジは自由。イメージをどう描いて、どう作るかは自分の感性次第だから」という渡辺さんでしたが、その自由というのがなかなかの曲者。春を表現するために、無数の花を見つめながら考え込む池田さん。淡いピンク色のチューリップをまず選んだ後、迷いながら一本一本生けていきます。

「ただ一生懸命に作って『はい、で

きました！』というのではおもしろくないでしょ。どう表現しようという頭の巡らせながら、その花をもらった時の印象を考えてイメージをふくらませていくの。でもキッチリするところはキッチリと。リボンのちようちよ結びだって、チョウが飛んでいるように意識する。お金をもらうものだから」。池田さんは1時間半ほどでなんとか作品を完成させました。

体験後、池田さんに感想を尋ねると「今日は時間がたつのが遅かったです。授業をやっているときは45分が10分くらいに感じるのに」。そして「私の子供が学校のカリキュラムで職業体験をしたと聞いて、実はうらやましかったんです。私は教員一筋です。今回は短い時間でしただけ、この経験をキャリア教育の授業に生かし、生徒たちにいいアドバイスができればと思います」と語りました。



店先の鉢植えに水をやるのも大事な仕事。花に水がかからないように注意する



花屋 の仕事学ぶ

Florist

当日のスケジュール	
●午前10時	花出し／開店／ガイダンス
●午前10時30分	フラワーアレンジメント制作
●午後1時	昼食
●午後2時45分	ブーケ制作／湯揚げ・焼き作業体験
●午後3時30分	体験まとめ
●午後3時30分	解散



たくさんの花に囲まれながら、渡辺さん(左)から商品の陳列の説明を受ける池田さん(右)

絵になるおしゃれな花屋さんで

子供の頃、お花屋さんで憧れた経験はありませんか？ 今回は高校で英語を教える池田友里子さんが花屋の仕事を経験します。前日には、勤務校の「自然と農業」という科目の授業を見学して、フラワーアレンジメント（以下、アレンジ）の予習をしたそうです。生徒が選んでくれたという、かわいらしい花がらのエプロンがよく似合っています。

体験先の花屋は、杉並区西荻にある「エルスール」。ロケ地になったり、本の表紙イラストに使われたりするそうで、まさに絵になるお店です。店内には、淡く上品な色のランタンキュラスやフリージアなどの切り花がところ狭しと並べられ、芳香を漂わせています。さらに欧風アンティークの調度品と店



内に流れる音楽があいまって、居るだけで心地良くなる空間です。事前にホームページを見たという池田さんも、実際に目の前にして感激していました。オーナーの渡辺邦子さんは、店の雰囲気そのままのシックな装いですが、話してみるととてもユニークな方です。「街のお花屋さん」というよりアーティストという気分で「ただ花を売るだけではつまらない。花をとおして自分の世界を表現したい」と語ります。ただもちろん、それができるのは花屋としての仕事をきっちりこなしているから。華やかなイメージで捉えられがちな花屋は、その実、地道な仕事が多々あります。

花屋店員はずっと立ち仕事

本日も最初の仕事は「花出し」です。



体験企画への参加者募集!

次回の読者参加企画への参加希望者を募集します。新年度を迎えるにあたってリニューアル予定ですが、よりよい体験をしていただける企画をご用意いたしますので、ぜひご応募ください。

応募方法 差込の「かがやき」編集担当宛てはがきにある参加希望欄にチェックを入れてお申し込みください。
※夏号以降にご参加いただく場合もございます。

応募締切 平成26年4月18日(金) 必着

取材時期 4月下旬